

子どもの本だな 51

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

いたずらこねこ

バーナディン・クック ぶん
レミイ・シャーリップ エ
まさき りこ やく (福音館書店)

小さな庭の小さな池に小さなカメが住んでいました。ある日、カメが庭をゆっくり散歩していると、仔猫が庭に入ってきました。生まれて初めてカメを見た仔猫は、立ち止まってカメを眺めました。それから用心しいい近づくと前足でカメをポン！とたたきました。カメの首がなくなって仔猫はびっくりぎょうてん。仔猫はカメの周りをぐるぐる回ってもう一度ポン！今度は足がなくなりました。しばらくすると、カメは足を出し、頭を出して仔猫のほうへ近づいてきました…。

小さな庭でくり広げられる仔猫とカメのやり取りが単純な動きとテンポのよい言葉で語られ、仔猫の好奇心が巻き起こす出来事におかしみがこみ上げます。やわらかいタッチの鉛筆画は表情を良く表しています。読んでもらえば4歳くらいから楽しめます。(西村)

北欧神話

パードリック・コラム 作 尾崎 義 訳 (岩波少年文庫)
山の頂上に住まいを建てた神々は、巨人たちの攻撃に備え大城壁を作ろうと考えました。見知らぬ男が「一年以内に作りあげる」と約束すると、神々の父オージンは男に望むものを与えようと約束しました。夏の最初の日、男は大きな馬を連れてやって来ました。その馬は昼も夜も石を運び積み上げ、城壁は日に日に高くなっていきました。しかし男の欲しがったものは、太陽と月と女神フレイヤだったのです。明日には城壁が完成するという夜、小さな牝馬があらわれました。大きな馬は仕事を放り出し、牝馬を追って野山を駆け回りました。よいことも悪いこともするローキの計略でしたが、オージンは神々の町アースガルドで正しくないことが行われたことを悲しみました。

力自慢のトールが花嫁に変装したり、トールとローキが巨人と力比べをする話は愉快ですが、ローキのいたずらや神々のふるまいが、混乱や巨人とのいさかいを招き世界は暗い陰におおわれていきました。世界の始まりから終末そして再生までを劇的に描いた北欧神話の物語。12歳位から楽しめます。(片木)

1月	2月	1・2月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
11日	8日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
18日	15日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
25日	22日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

読書講演会のお知らせ

「心に一粒の種をまく」
子どもがよい物語をもつ意味」
講師:小寺 啓章さん
(元太子町立図書館長)
日時: 2月4日(日)
14時~16時
会場:あすかホール・中ホール
対象:一般(200名)
申込:図書館窓口または電話で

『ソマリランドからアメリカを超える 辺境の学校で爆発する才能』

ジョナサン・スター 著

黒住 奈央子・御松 由美子 訳

KADOKAWA 326頁 2017年9月刊 1,600円 (請求記号) 372.4

破綻国家ソマリアから分離した小さな共和国、ソマリランド。国際社会から独立国家として認められていないため、経済的な苦境にあっても、国際組織からの融資も、海外の民間投資もなく、教育体制は崩壊している。そんなソマリランドに、国の将来を担うリーダーを育てたいとアメリカ人の著者が、経営していた投資会社をたたみ、学校を創った。

目標は、世界トップレベルの大学で勝負できるようにすること。ある氏族から土地をもらいうけ、アバルソ学校が設立された。九年生からの入学だが、子どもたちの平均的な学力はかなり低く、英語は一年生レベルから始まる子が多数。入学して数年後に、四年生の算数にもどる必要もあった。しかし、ものごとを分析することで批判的思考を身に着ける教育法で子どもたちの学力は飛躍的に伸びていく。週に三日、地域の児童養護施設に赴き、生徒が教師として授業を行うボランティア活動も、双方によい影響をもたらした。一期生が入学して三年後、三人の生徒がアメリカのプレップスクールに留学する。そのなかの一人、ムバリックは、学校に入学する数年前まで、砂漠を走るトラックを生き物だと思ふような遊牧生活を送っていた。アメリカでの生活すべてに戸惑いながら、ひよいと出場したマラソン大会で十位になり、学校のチームを率いる存在に。学業も好成绩で、後輩たちにアメリカ留学の道をひらく。MITに合格したムバリックのほか、数多くの生徒が海外の大学の奨学金を受け、アバルソ学校がソマリランドで認められる存在となる。

著者の学校経営をとおして見るソマリランドの氏族社会、イスラム社会、退廃した教育体制のほかにも、様々な面からソマリランドを知りたいと思わせる。また、子どもたちの学ぶ喜びが大きな成果を生む過程は、意志と環境で人間の伸びる可能性が大きいことを感じる。

(竹内)

13歳からの読書会

『トム・ソーヤーの冒険』を読んで

2月11日(日) 14時~15時30分

- ・対象：中学生以上(要申込)
- ・会場：図書館・読書会室
- ・『トム・ソーヤーの冒険』

(マーク・トウェイン作 石井桃子訳)

- * カレンダーの×印は休館
- * □ は館内整理日。
返却のみ受付(10~17時)
- * 開館時間は、
10時から18時まで。
金曜日は20時まで開館。

1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	×	×	×	4	5	6
7	8	×	×	11	12	13
14	15	×	×	18	19	20
21	22	×	×	25	26	27
28	29	×	×	31		

2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	×	7	8	9	10
11	12	×	×	15	16	17
18	19	×	×	22	23	24
25	26	×	×	28		

地下水

初春のお慶びを申し上げます。本年もどうぞよろしく願います。昨年は休館日を変更し、館内の展示の工夫、考古学講座、新しい試みとしては野鳥観察会を開催した。今年も、町民の方に図書館に来てもらい、本を手に取り、読書の楽しみが広がるきっかけになるような工夫を考えていきたいと思っています。

12月23日のおはなしの時間は、大人も参加できる「クリスマスおはなしの時間」にして、参加者には職員手作りの小さなプレゼントを配った。消しゴムはんこのしおりと、細かい切り絵は、どれも好評だった。

野鳥観察会も人気で、楽しかったという声が多かった。当日は図書館のカウンター担当だった私は、別の日に開かれた会に参加させてもらった。鳥を見かけてもほとんど名前もわからないレベルだったが、鳥名人(?)の先生の話聞きながら福井大池を一周した後、鳥に対する感覚が新しく塗りかえられた感じだ。鳥への興味が俄然わいてきて、図鑑も見たいし鳥に関する本も読んでみたい。ちよつと扉を押してもらいさえすれば、新しい世界が開くのだ。

図書館がそのお手伝いをできれば、と思う。

(池田)

